

令和7年度 全国学生調査結果からみる東京医療保健大学の教育の特色

【公表の趣旨】

東京医療保健大学では、文部科学省「全国学生調査」の令和7年度本学集計結果をもとに、学生の学びの実感から見える本学の教育の特色を分析しています。本号では、各学部・学科の強み、教育改善への活用、学修成果の可視化に焦点を当て紹介します。

1. 全国学生調査とは

全国学生調査は、文部科学省が「学生の目線」から大学教育や学びの実態を把握し、各大学の教育改善、大学進学希望者・保護者・社会への情報提供、政策立案、学生自身の学修の振り返りに活用することを目的として実施している調査です。令和7年度以降は本格実施として位置づけられ、授業の状況、大学での経験、身に付いた知識・能力、学び全体の振り返り、生活時間等を共通項目で把握します。

2. 本学の参加状況

回答者総数	2年生	最終学年	集計区分
1,207名	743名	464名	7区分(学部・学科別)

本学では、医療保健・看護・栄養・情報の専門職育成に関わる教育成果を、学生の学修実感を含めて把握するため、全国共通項目を用いた集計を行いました。

3. 学生の回答から見た全学的な強み

強み	学生の回答から読み取れること
専門職教育としての実感	「専門分野に関する知識・理解」や「将来の仕事につながる知識・スキル・態度・価値観」について肯定的な回答が多く、専門職としての成長を学生が実感していることがうかがえます。
実践・協働を重視した学び	グループワーク、ディスカッション、他者と協働する力、問題を見つけて解決方法を考える力に関する項目で肯定的傾向がみられ、チーム医療・多職種連携を意識した教育の特色が表れています。
教職員による教育への熱意	「教職員が熱心に教育に取り組んでいる」について肯定的な回答が多く、学生に近い距離で学びを支える教育姿勢が本学の強みとして確認されました。
成長実感につながる学修環境	「大学の学びによって成長を実感している」についても肯定的な回答が多く、授業、演習、実習、学生支援を通じた学修成果が学生の自己評価に結びついています。

4. 各学部・学科の特色として確認された強み

以下は、学部・学科別の回答傾向から、教育上の特色として整理したものです。学部・学科の回答傾向は、カリキュラム進行、実習時期、国家試験・資格取得、学年構成、回答者数等の影響を受けます。そのため、本 IR NEWS では、各学部・学科の教育の特色を可視化する資料として整理しています。

学部・学科	ポジティブ分析	IR 推進室による解釈
医療保健学部 看護学科	専門職としての知識・理解と将来の仕事につながる学び	看護専門職としての知識・技術・態度の形成に関する肯定的な回答が多く、専門科目、演習、実習が将来の職業像と結び付いていることがうかがえます。
医療保健学部 医療栄養学科	授業外学修を含めた主体的学修と専門性の形成	予習・復習・課題などの授業外学修を含め、管理栄養・栄養支援に関する専門性を段階的に深める学びが学生の実感につながっています。
医療保健学部 医療情報学科	少人数を生かした学修支援と医療情報分野への接続	医療と情報をつなぐ専門領域において、少人数環境を生かした教育・支援のもと、学生が専門分野への理解や成長を実感できる学修環境が示されています。
千葉看護学部	協働学修と実践的な看護教育	グループワークやディスカッション、他者と協働する力に関する項目で肯定的な傾向がみられ、実践的・協働的な看護教育が強みとして表れています。
東が丘看護学部	学生同士で学び合う演習・対話型学修	ディスカッションや意見交換を通じた学び、協働的な学修機会が学生の学びの実感につながっており、対話を基盤とした教育の特色が確認されました。
立川看護学部	実践を意識した学修経験と協働の機会	実践場面を意識した演習・実習、グループワーク等を通じて、看護専門職として必要な協働性や問題解決に向かう姿勢が育成されています。
和歌山看護学部	卒業時の到達目標を意識した学修と地域に根ざした看護教育	卒業時まで身に付けるべき知識・能力を意識した学修に関する肯定的傾向がみられ、地域に根ざした看護教育と専門職としての成長実感が結び付いています。

5. データを教育改善につなげる視点

全国学生調査は、学生の声をもとに教育活動を点検し、改善につなげるための重要な IR データです。本学では、調査結果を単年度の集計にとどめず、授業アンケート、学修実態調査、卒業時調査、国家試験関連データ、実習評価等とあわせて活用し、ディプロマ・ポリシーに基づく学修成果の可視化と内部質保証に接続していきます。

今後の活用方針	具体的な取組の方向性
強みの横展開	各学部・学科で効果がみられる授業方法、演習、実習、学生支援の好事例を共有し、全学 FD や教育改善に活用します。
学修成果の可視化	学生が「何を学び、何を身に付けたか」を実感できるよう、ディプロマ・ポリシー、科目到達目標、評価基準の接続を明確にします。
学生の声を反映した改善	授業アンケートや学生調査の結果を改善につなげ、改善した内容を学生へ分かりやすく還元する「見える改善」を進めます。
社会への説明責任	教育成果や改善の取組を IR NEWS 等で継続的に公表し、受験生、保護者、地域社会、医療・保健・福祉の現場に向けて、本学の教育の特色を発信します。

6. まとめ

令和 7 年度全国学生調査の本学集計結果から、専門職教育としての実感、実践・協働を重視した学び、教職員による教育への熱意、学生の成長実感が、本学の教育の特色として確認されました。今後も IR 推進室は、データに基づく教学マネジメントを支え、各学部・学科の強みを可視化しながら、教育改善と学修成果の質保証を推進してまいります。